

第38回 グローバル感染症研究セミナー



2025年12月5日
16:00-17:00

参加登録はこちら

<https://forms.gle/GTcGCJKHpSgY7xLYg>



演者：住友 倫子 先生

徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔微生物学分野 教授

ハイブリッド開催

(Teams、グローバル感染症研究センター棟 1F多目的室)

細菌性肺炎の重症化分子機構の解明～高齢者肺炎の制御を目指して～

高齢者はウイルス感染症に罹患した後、上気道に定着する肺炎球菌や口腔細菌による細菌性肺炎を合併し、重症化の転帰をとることが多い。わが国における高齢化率は今後も上昇すると見込まれており、病因論に基づく有効な予防・治療法の確立が求められている。我々はこれまでに、インフルエンザウイルス感染に伴い気道上皮の表層に誘導される分子シャペロンGP96が細菌性肺炎の増悪因子であることを明らかにした。また、ヒト病理検体を用いた空間トランスクリプトーム解析において、GP96の強い発現と免疫細胞浸潤が認められた領域では、炎症応答を促進させる経路に関わる遺伝子群の発現が増加する一方で、細菌のクリアランスに重要なCXCL1とCXCL2の発現は著しく低下することを見出した。さらに、GP96の高発現領域では、炎症老化で注目される線維芽細胞の増殖とコラーゲンの産生を促す創傷治癒経路の活性化を認めた。

本セミナーでは、肺炎モデルマウスとヒト病理検体を用いた細菌性肺炎の病態形成に関する最新の知見とGP96を標的とする新規感染制御法の確立に向けた戦略も含めて紹介したい。

世話人 三好 智博
(グローバル感染症研究センター 講師)

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係 (5444)
TEL 097 (586) 5444 E-mail glocal@oita-u.ac.jp